

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	平成27年5月5日	評価結果市町村受理日	平成27年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年6月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・居室担当制とし入居者ごとに職員を決めている→担当職員が希望を確認し外出したり消耗品を一緒に買いに行ったり日々の関わりの中で本人の思いなどをくみとっている ・居室担当を軸にカンファレンスを開催 家族の希望も反映し介護計画は3カ月毎に見直している ・モニタリングは居室担当が毎月行っている ・看護師が平日勤務しており、居室での看取りの実例がある ・運営推進会議では、多数の家族が参加されており有意義な意見交換ができるようにしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当グループホーム周辺には公園や神社などがあり、のどかな環境にある。阪神間を拠点とする(株)カムネスライフ22事業所あるグループホームの一つで平成22年3月に設立され、今年で5周年を迎える。生まれ育った地域で過ごし、あるがままの自分でいられることと地域に根ざした生活を提供できるよう、管理者・職員は地域の季節行事、消防訓練、公園清掃活動への参加、地域ボランティアの受け入れ、保育園への訪問など積極的に地域交流を深めている。居室は担当制を取り入れ、職員は利用者の要望や意向を柔軟に受け入れて、外出、買い物など日々の関わりの中で利用者の思いなどを汲み取る努力をしている。運営推進会議も家族や関係者の参加も得て、意見交換も活発である。基本理念通りのグループホームに向けて、職員は日々努力している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに「今までの暮らしがこの地域で普通に過ごせる そんなグループホーム」と掲示。誰でもわかりやすく堅苦しくないイメージを当ホームのカラーとしても雰囲気作りとしている。	事業所の理念を玄関・各ユニットに掲示して、管理者、職員は月1回配布するチェック表で日々の介護の現場やサービスの意義をスタッフ会議で確認して、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、町内の公園掃除・防災訓練・運動会に定期的に参加。また理髪店・美容院・軽食店洋服屋なども同町内を使用している。暮らしていると普通に行き来がある。	町会に加入し、地域の季節行事・公園の清掃活動・防災訓練・運動会などに参加している。近隣の保育園への訪問や地域のボランティアや不定期にドッグセラピーの訪問もある。散歩や外出時には近隣の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所力としては貢献までは薄い。ただ介護保険や認知症のことで何処に尋ねたら良いのか？と来館されることはでてきている。(料金的な面や有料ホームや介護付きホームの紹介など)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加が多く、退居されてからも参加して下さる。ホーム内でのイベント、入居者状況(入退院)、スタッフ数、事故報告、検討課題を家族や地域包括の意見を交え積極的な意見交流となっている。	開催日を奇数月の土曜日として家族の参加が得られるよう工夫している。地域代表・地域包括支援センター・家族・管理者で構成され、事業所の近況報告、今後の行事予定の報告を行っている。意見や提案もあり有意義で双方向的な会議の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内に6事業所あり、代表(担当者)が問い合わせをしている。	大阪市介護保健課に市内の系列事業所と共に介護改正や運営上の相談や問い合わせなど行い、連携を密にしている。毎月開催される淀川区グループホーム連絡会に参加し、他の事業所の情報得て参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議内で虐待、身体拘束、行動制限の時間をとっている。施錠については実際離棟事故あり→現在は運営推進会議などで家族の意見も参考に検討している。(取り組んでいる)	管理者と職員は身体拘束をすることの弊害を理解している。身体拘束禁止マニュアルを作成し、定期的にホーム内で研修・勉強会を開催している。安全上玄関は施錠しているが見守りケアで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待が見逃されていないかなどの防止に努めている。スタッフ会議の前に事前にアンケートを実施。内容について会議で振り返りなどしている。(気になるケアがあれば書き込めることにもなる)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な知識とは言えない。活用までは至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正時→説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族参加も多く、施設内での課題や認知症、家族の思いなどを積極的に話し合う機会が定期的にある。本年度は退居された家族も参加していただいた。(看取りの経過などについて)	2ヶ月に1回運営推進会議後、家族会(8~9名)を開催して意見や要望を聞く機会を設けている。出席できない家族へは電話・メール・手紙などで聞く配慮をしている。提案された意見や要望は会議で検討して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者、事業所 スタッフ間での食事会 ・事業所職員間での食事会 ・意見が出やすいよう毎月アンケート作成→配布(介護リーダー)	管理者は職員が意見を出しやすいよう毎月アンケートを配布し、支援のあり方や、ケアの統一、勤務に関する要望など提案して職員会議で検討している。定期的に懇親会や法人代表者との食事会など職場環境づくりを心かけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績を把握し評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内研修(グループ内) ・施設内での勉強会 ・法人外部研修や交換研修の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内での施設間研修 ・法人外スタッフ交換研修 ・同業者が集まる交流会への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と連絡を密にし、不安なことや希望を受け入れるよう工夫や努力をしている。 (例:妻と会いたい→某病院待合室で会う)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して良かったのか？馴染んでいるのか？たまには外に出ているのか？など連絡を密にしメールや写真などを送り関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と面談や関係者から情報収集に努め、医療面なのか？認知症の面なのか？家族との関係性なのか？必要と思われる支援への行動を行うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線に立つよう意識や努力が伺える。 認知症ケアを年頭に支援者の立場を振り返るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望や気になる点をできるだけ伺えるよう努め、一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた美容院、喫茶店、コーラスに出向いたり、入居前の関係者に葉書を出すなど途切れないように意識している	地域の馴染みの友人・知人や家族の訪問が多く、関係が途切れないよう支援している。担当職員が馴染みの店や美容院など同行支援したり家族同伴の墓参り・コーラスなどへの参加も支援している。管理者は多目的ホールを居酒屋や喫茶店など利用者が主役の交流の場を作りたいと計画をしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケや編み物など趣向が合う「会」をセッティングしている。入居者がマスター役の喫茶店の「会」が好評。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方へ失礼のないことを配慮しながらもメールなどでご様子を伺ったりしている。 逝去されてからも来館いただくこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当制の反映 ・家族からの聞き取り ・カンファレンスでの検討(本人本位確認)	センター方式を活用して、利用前には見学や不安感を取り除いて信頼関係を築く努力をしている。利用者の自宅を訪問して、生活歴や生活環境、趣味嗜好などを確認し、アセスメントシートを作成し職員間で共有している。入居後も現状の変化や意向を把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式のシートを参考に情報収集 ・家族から伺う ・以前のケアマネなど関係者から情報収集		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	孤独が好き、昼寝をしていた、パンは焼かない方がいい、幹事的なまとめ役をしていた、など 把握に努めケアプランに反映している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族へはメール、郵送、来館時へ伺い ・3か月毎に計画作成 ・毎月居室担当がモニタリング ・月1カンファレンスの実施	担当職員と毎月モニタリング、ケアの内容評価・見直しを行い、サービス担当者会議を実施し、家族の要望・意向も反映して介護計画が3ヶ月毎に立案され家族の同意を得ている。体調変化時や急変時には随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へまず記録しているが 毎月のモニタリング表へも気付いた点記録し計画に見直しや実行率を把握している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が骨折しているストーリーで入居された場合、家族と話し合い、S病院の待合室で車椅子に乗っていただいた家族と本人さま合流し顔合わせるなど、できる限り本人が納得できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との公園掃除、防災訓練に参加している。 また近所の軽食店(民生委員)に出向き安心して地域の風を感じている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックやずっと通っておられたクリニックへ外来 往診など適切な医療を受けられるよう整えている	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。しかし、殆どの利用者は、ホームの提携医療機関をかかりつけ医と決め、往診して貰っている。他科(眼科、心療内科等)の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は看護師が勤務しており常に相談できる環境		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心に病院関係者との情報交換や連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族、事業所での面談を早い段階から行い家族の希望や意向、医師からの確認を行い終末期のあり方について話しあっている 都度 かかりつけ医からも面談の希望もある	本人や家族が安心してできるように、入居契約時「重度化した場合における対応に係る指針」を示し、納得して貰っている。更に何度も話し合いを繰り返し、ホームで看取れるようなケースについては、「看取り同意書」に家族の署名捺印を得て実施している。去年は4例の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的でないが確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施 隔月に災害担当中心にミニ勉強会をしている	マニュアルも火災、地震、風水害の3種を揃え、特に火災に対する避難訓練を年2回実施している。職員に防災意識を常に持って貰うために、隔月にミニ勉強会を開いている。ただ、避難訓練に近隣住民の参加は得られていない。	運営推進会議からの呼びかけや普段のお付き合いで、一度近隣の方に避難訓練を見て頂き、いかに大変かを実感して貰い、次回から参加して頂く努力が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の会議前にアンケートを配布し自分も含めて事業所内で気になる言葉かけがないか振り返るようにしている	利用者に対して尊厳、プライド、プライバシーを充分意識したケアを心がけている。職員も多忙で、つい粗暴な言葉使いをした場合には、近くにいた職員が注意し合うチームワークも育ちつつある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当が中心に会話の中から希望を伺ったり、さぐるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう考えるが(選挙日など)業務の流れもあり毎日希望優先は困難である		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落に気を使われる入居者・家族多く、好きな色や服、カットや毛染めにへのこだわりを大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全入居者でないが 下膳→食器洗い→テーブル拭きを担当でされる。お盆拭きはまた違う方が担当など役割がある。	献立や食材は、配食業者から届けられるが、調理、盛り付け及び食事形態等は、ホーム厨房で行っている。利用者もテーブル拭き、食器洗い等を担当し、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、体重など月単位で一覧しやすいよう管理している。(主治医へ報告しやすい)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個別の排泄記録からパターンを検討し早めのトイレ声かけやリハビリパンツから普通の下着への取り組み実践をしている	排泄チェック表や利用者固有のサインを見逃さず、利用者の排泄リズムやパターンを把握する努力をして、早めのトイレ誘導し、せめてトイレで排泄して貰うよう支援している。昼間はおむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・バナナ、ヨーグルトなどの個々への対応 ・水分管理や腹部マッサージなど看護師と相談しコントロールしている ・家族の希望を取り入れている(ミルミル・ビオヨーグルト)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・内科往診、歯科往診などへは重ならないよう曜日、時間帯など配慮している ・その日その時「拒否」に対して→無理せず午後からや後日入っていただくなどしている	原則週3回の入浴を支援している。希望されれば毎日の入浴にも応えている。お誕生日にはバラ浴やアロマオイルを使い楽しんで貰っている。入浴拒否の方には、職員の工夫で入浴して貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・年齢や体力、状態から昼寝(休息)が必要であれば臥床時間の確保など対応している ・ベッドより床(布団)の習慣の方へはそれぞれに合わせた対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	眠たくなる程度の副作用は理解できるが細かい点までは理解に乏しい。看護師が身近にいるため都度確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	玄関掃除、食器洗い、新聞取り込み、手すり拭きなど個別に日課表を作成→居室に貼り、ケアプランにも導入している方もいる。グループホームに適している方が増え今後、力を入れていきたい		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日 全員の希望には添えないが定期的に喫茶店・神社・お好み焼き店・保育園などに出向いている。 居室担当が個別の希望を聞き、個々にあった外出先へ行く機会をつくっている	要介護度も進み、全員の散歩支援は困難になりつつあるが、それでも神社仏閣へのお参りや保育園訪問、馴染みの喫茶店等に出かけている。全く散歩不可能な方に対しては、ホームの一部を喫茶店風にしつらえ、楽しんで貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の買い物などで使用できる金額を家族と話し合い事業所管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ある方は毎日手紙を書きポストへ投函している ・定期的に(月1) 家族へ手紙を書くなどケアプランに入れている ・以前のケアマネへ年賀状を書いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、共用部と空間が広く、採光も良い。入居者に人気の大きなクマのむいぐるみを置き、癒してもらえるよう工夫している	食堂兼リビングの共用空間については、開設して5年が経過しているが清潔感があって広く、窓も大きくて非常に明るい。ユニットごとに厨房を挟んで居室が左右に広がっており、利用者の様子がすぐ分かるような設計となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、たまには一人になれる空間も確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のお部屋に近いイメージで家族に協力を得ている。馴染みの物、好きな色など	表札についても、きれいな風景写真の上に名前が大きく書かれ、利用者目線に設置されており、部屋間違いをなくすよう工夫されている。部屋の雰囲気も自宅の延長感を感じる工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は1F 2Fと自由に流動的に過ごされるようにしている。危険と想定する箇所については家族の意見も伺いながら検討対応している		